

民俗学の思想

2018 年追試

問 8 古来の心意を研究した折口信夫についての説明として最も適当なものを，次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 伝承された習俗や信仰を手がかりに民俗学的な視点から国文学を研究し，人々と神の交流を通じて文芸や芸能が発生したと考えた。
- ② 柳田国男や自己の学問を古学と呼び，それが本居宣長や平田篤胤による江戸時代の学問を受け継ぐものであると考えた。
- ③ 伝承された習俗や信仰を手がかりに古代の思想を研究し，村落にとどまる祖霊としての田の神こそが日本の神の原型であると考えた。
- ④ 柳田国男や自己の学問を新国学と呼び，それが日本の伝統文化を人類学や生物学の知見を用いて捉え直す営みであると考えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	①	3

2017 年本試

問 8 日常の生活に注目して思索を展開した思想家の一人として、柳宗悦がいる。彼についての説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。

27

- ① 名もなき人々の生活に注目することによって確立された民俗学の方法を基に、日本の神の原型を探究し、神は海の彼方にある常世国に住み、時を定めて村落を訪れる「まれびと」であると主張した。
- ② 民衆が伝承してきた昔話や習俗のなかに、固有の文化があると考え、文字として残っていない琉球・沖縄の伝承や古歌謡「おもろ」に注目し、沖縄固有の民俗学の確立に尽力した。
- ③ 江戸の庶民のなかで、恋を貫こうとする意気込みやきっぱりと諦める気風が「いき」であるとして尊重されていたことを見だし、それが日本的な美意識の根幹を成すと主張した。
- ④ 名もなき職人の熟練した手仕事によって作られた日用品のなかに、固有の実用的な美しさがあると考え、それを「民芸」と名付けて、各地の民芸品の収集や再発見を目的とした民芸運動を展開した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 8	27	④	3

2014 年本試

問 7 下線部 **g** に関連して、このような状況のなかで、自然との関わり方について考察した人物として、南方熊楠があげられる。南方熊楠の説明として最も適当なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 26

- ① 村落共同体を生きる人々の生活に注目し、民俗学を創始した。人々にとって山は先祖の霊が帰る場所であり、人々は、ときを定めて先祖の霊と交流することができるかと信じていた、と説き、村落共同体の景観と信仰との関係について考察を進めた。
- ② 明治政府によって神社合祀令が出されたときに、古い社や鎮守の森が破壊されるとして反対運動を起こした。鎮守の森は、人々の信仰心や共同性を育むものとして必要であるとともに、生態学の研究対象としても重要であると主張した。
- ③ 歌人として活躍するとともに、古くからの神のあり方について研究を進めた。神の原型は、海のかなたにある常世国から定期的に村落を訪れる「まれびと」であり、人々は海のかなたに理想的な世界を思い描いていた、と説いた。
- ④ 明治時代後半に足尾鉍毒事件が起こったとき、農民の側に立って反対運動を行った。鉍毒が川に流れ込むことによって魚が死に田畑が荒れていくなかで、人々の生活と自然との強い結び付きを見だし、「民を殺すは国家を殺すなり」と訴えた。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	26	②	3

2009 年本試

問 2 折口信夫は、幸をもたらす神や鬼をまればとと呼んだ。これに関して、次の文章を読み、に入れるのに最も適当なものを、下の①～④のうちから一つ選べ。

狂言『節分』は、蓬萊^{ほうらい}という他界から日本に渡ってきた鬼が、ある屋敷の留守居の女性に一目惚^{ひとめぼ}れしてしまい、言われるままに隠れ蓑^{みの}や隠れ笠^{がさ}、打出^{うちで}の小槌^{こづち}などの宝を渡してしまう、といった話である。もらえる限りの宝を受け取った女性は、「福は内へ、福は内へ。鬼は外へ」と囃^{はや}しながら豆を投げ、鬼を追い払ってしまう。このように見ると、節分の行事において、「福は内」と叫ばれるその福とはであることが分かる。

- ① 他界の鬼がそれを目当てに訪れる、この世にある豊かさ
- ② 冥土^{めいど}の鬼がそれによって人間を誘惑する、見せかけの宝
- ③ 人間が扮^{ふん}した鬼が儀礼的に人々に分け与える村の豊かさ
- ④ 人々から豆を投げつけられる鬼が他界から運んできた宝

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 2	15	④	3

2007 年追試

問 7 近代日本においては、無名の人々に光を当てることで人間理解を深めようとする思想家たちが現れた。そのような思想家についての説明として最も適切なものを、次の①～④のうちから一つ選べ。 19

- ① 柳宗悦は、民衆の生活に根差した茶碗ちやわんや皿に美を見出し、多くの無名の職人を有する日本民族の優秀性を説いた。
- ② 折口信夫は、古代日本人の心性に奥深く分け入る方法によって、「まれびと」としての神と人々との交流を理論化した。
- ③ 柳田国男は、日本全国の民間伝承を収集し、『先祖の話』において江戸時代の日本人の精神構造を探究した。
- ④ 南方熊楠は、自然と地域文化の宝庫である鎮守の森を保存するために、神社ごうし合し祀を推進することを主張した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 3 問	問 7	19	②	3

2001 年本試

問 2 環境問題に関連して、次のア～エの記述が当てはまる人物の組合せとして最も適当なものを、下の①～⑥のうちから一つ選べ。 32

- ア 工場廃液による汚染のために公害病に冒された人々を取材し、被害者に強い共感を示して公害問題の実態に迫った。
- イ 生態学的な視点から、神社合祀令による神社の統廃合によって鎮守の森が破壊されることに反対した。
- ウ 消費を中心とする社会を批判し、農民の立場に立って自然と協調しながら生きる世の中の確立を説いた。
- エ 地元の鉱山の鉱毒によって農民が被害を受けている現実に直面して、鉱山の操業停止を求める運動を起こした。

- ① ア 田中正造 イ 南方熊楠 ウ 安藤昌益 エ 石牟礼道子
- ② ア 南方熊楠 イ 安藤昌益 ウ 石牟礼道子 エ 田中正造
- ③ ア 安藤昌益 イ 石牟礼道子 ウ 田中正造 エ 南方熊楠
- ④ ア 石牟礼道子 イ 南方熊楠 ウ 安藤昌益 エ 田中正造
- ⑤ ア 田中正造 イ 石牟礼道子 ウ 南方熊楠 エ 安藤昌益
- ⑥ ア 石牟礼道子 イ 田中正造 ウ 安藤昌益 エ 南方熊楠

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 2	32	④	2

2000 年本試

問 4 以下の文は、日本の近代の思想家たちの考え方を述べたものである。これらのうち、柳宗悦について述べたものとして最も適当なものを、次の①～⑥のうちから一つ選べ。

28

- ① 日本の「常民」の生活文化を明らかにしようとして、日本民俗学を創始したが、地域の多様な文化に関心を示し、伝統的習俗の調査のために全国各地を旅した。
- ② 自己の哲学の根底に坐禅の体験をおいたが、ギリシャ以来の西洋哲学の伝統を広く受容し、マルクス主義や現象学などの現代哲学の提示した問題にも答えようとした。
- ③ 日本の文化には、過去の多様なアジアの文化を保存する「博物館」としての意義があると考えたが、「アジアは一つ」とであると説いて、その文化的共通性を強調した。
- ④ 無名の職人によって作られた日本の「民芸」に新たな美を発見したが、朝鮮の芸術にも同様の価値を見いだして高い評価を与え、朝鮮民族への敬愛を説いた。
- ⑤ 「日本主義」を唱えて、日本の伝統や国情に即した改革を説き、欧化主義を批判したが、一方で広く世界人類の幸福実現に対する日本人の使命の自覚をも強調した。
- ⑥ 奈良の古寺に残る日本古代の仏教芸術に関心を示したが、それらが中国・インド・ギリシャなどにおける古代芸術と多くの共通点をもっていることを指摘した。

問題番号	設問	解答番号	正解	配点
第 4 問	問 4	28	④	3